

---

施工要領書

タフレスト

第 2 - 1 版

シンコール株式会社

# タフレスト施工要領書

本施工要領書は、乾式(ドライ)清掃対応の超防汚性トイレ用ビニル床シート『タフレスト』を施工する為のものであり、明記されていない施工法の発生並びに止むを得ず記載事項の変更を要する場合には、随時検討、対処するものとする。

## 1. 材料規格

### (1) 床材の種類記号

発泡層のないもの  
複層ビニル床シート FS (JIS A 5705)

### (2) 材 質

塩化ビニル樹脂を主成分とし、可塑剤、安定剤、充填材および着色剤で構成されている。表面に防汚コーティング (UV 樹脂層) がされている。

### (3) 寸法規格

寸 法	2.0mm (厚さ) × 1,820mm (幅) × 9m (長さ)
-----	------------------------------------

## 2. 副資材

### (1) 下地補修材

下地に凹凸、穴などがある場合には、下地補修材《ロンフロー》を用いて補修する。

ロンフロー: ポルトランドセメント・特殊合成樹脂・特殊充填材からなる樹脂モルタル

### (2) 下地処理材(プライマー)

下地表面に粉立ちがある場合には、下地処理材《ロンバインダー》を塗布する。

下地の湿気が予想される場合や下地表面強度が弱い場合には、下地処理材《ロンプライマーU》または《ジョリエースJE-70》を塗布する。

ロンバインダー : アクリル樹脂系エマルション形

ロンプライマーU : ウレタン樹脂系溶剤形 (脱BTX対応)

ジョリエースJE-70 : エポキシ樹脂系溶剤形 (脱 BTX 対応) (推奨品: アイカ工業(株)製)

### (3)接着剤

#### 1)耐水(耐湿)工法

EPシングルウレタン : (ウレタン樹脂系溶剤形 JIS F☆☆☆☆)  
EPシングルウレタン 2000: (ウレタン樹脂系溶剤形 JIS F☆☆☆☆)  
SG-1000 : (ウレタン樹脂系溶剤形 JIS F☆☆☆☆)

#### 2)立上り部

EPシングルウレタン : (ウレタン樹脂系溶剤形 JIS F☆☆☆☆)  
EPシングルウレタン 2000: (ウレタン樹脂系溶剤形 JIS F☆☆☆☆)  
SG-1000 : (ウレタン樹脂系溶剤形 JIS F☆☆☆☆)

### 3)巾 木

シンコール水性巾木糊 : (アクリル樹脂系エマルジョン形 JIS F☆☆☆☆)  
プラゾール巾木糊 : (ビニル共重合樹脂系溶剤形 JIS F☆☆☆☆)

### (4)溶接棒

目地処理は専用溶接棒による溶接工法又はスーパーシームシーラー液による液溶着工法から選定する。

- ・溶接工法 専用溶接棒  $\phi 3.6\text{mm} \times 50\text{m}$  巻
- ・液溶着工法 スーパーシームシーラー液(塩化ビニル樹脂系溶剤形)

注 1. 溶接棒は防汚コーティングされていない為、床シート部分と艶が異なる。

### (5)端部シーリング材

端部は《エルズシーラー》及び《SPシーラントU》などでシーリング処理する。

エルズシーラー : (エポキシ樹脂系溶剤形二液混合形) 2kg缶(主剤・硬化剤セット)、標準使用量: 35~40g/m

SPシーラントU : (ウレタン樹脂系溶剤形シーリング材) 320mlカートリッジ入り×2 本/ケース、14m/本

注 1. エルズシーラーのカラーペースト(着色剤)は別売りとなる。

### (6)出隅目地処理材

タフレストを巻き上げ施工する場合、出隅の目地にコーキング材を充填する。

カラーライト : アクリルラテックス(推奨品: 関西フェルトファブリック)

## (7)巾 木

巾木には、各種シンコール巾木を使用する。

- ・プレーン巾木(短尺巾木)
- ・ロール巾木(長尺巾木)
- ・ササラ巾木
- ・ワイド巾木(プレーン・H=300)
- ・ニューウッドイロール巾木(木目長尺)
- ・ニューウッドイワイド巾木(木目・H=300)

## 3. 工 法

	耐 水 (耐湿) 工 法
下 地	コンクリート・モルタル下地
接 着 剤	EP シングルウレタン EP シングルウレタン 2000 SG-1000
目 地	専用溶接棒による溶接工法 スーパーシームシーラーによる液溶着工法
端部処理	エルズシーラー及び弾性シーリング材によるシーリング工法
出隅目地処理	コーキング材充填による目地処理

注 1. キャスターの動荷重が頻繁に加えられる場所では、「ロンセメントUL」を使用する。

## 4. 施工手順

施工方法は次の手順で行う。

- ◆新規施工または改修施工のいずれの場合も下地点検・対策が重要となる。
- ◆下地の種類や状況および床材の種類(機能性)による接着剤の選定が重要となる。
- ◆目地処理は、専用溶接棒による熱風溶接工法またはスーパーシームシーラーによる液溶着工法を行う。

### (1)材料の搬入・保管

- ①運搬及び搬入時には、落したり、ぶつけたりして破損させないように取り扱いには注意する。
- ②保管場所は前もって清掃し、砂や砂利などが無いようにする。
- ③床シートは乾燥した室内の平坦な場所にまっすぐ立てて保管する。
- ④保管の際は、転倒防止のため、ロープなどで柱などにくくりつける。
- ⑤どうしても横置きにしなければならない場合は、積み重ね(俵積み)は避けて平置きとし、出来るだけ短期間で済むように配慮する。

注 1. 端部が割れる恐れがあるので立てかけたり横置きする際には衝撃を与えない。

注 2. 重量物ですので取り扱いには十分にご注意ください。落下や乱暴な取扱いは、シートを破損する原因になるだけでなく、傷害や器物破損の原因となる場合がある。

注 3. 半径 3m 以内は関係者以外立入禁止とし、関係者以外は触れないようにする。

注 4. 斜めに立て掛けますと、角に集中荷重がかかり変形する可能性がある。

注 5. 副資材は容器からの漏れがないことを確かめ、転倒落下、破損がないように荷崩れ防止を確実に行う。

注 6. 副資材の保管にあたっては、消防法の集積制限に従う。

## (2) 下地の調整

施工のための下地条件は、下地面を平滑に仕上げ、下地の乾燥は十分に行い、粉立ちがなく、表面強度が十分であることを確認してする。

### 1) 乾燥度

- 下地コンクリートは十分乾燥させる。

日本床施工技術研究協議会の「コンクリート床下地表層部の諸品質の測定方法・グレード」を基に水分率目安と施工方法目安を設定する。基本的にグレードⅠを推奨する。

表 ケット水分計「HI-500」「HI-520」「HI-520-2」による読み値と水分率目安

グレード	選択 D. MODE (読み値)	従来 (CH-2 型) の 下地水分指標 (%)	施工方法目安
Ⅰ	HI-500 : 490 未満 HI-520、HI-520-2 : 440 未満	8%以下	一般工法
Ⅱa	HI-500 : 490 以上 690 未満 HI-520、HI-520-2 : 440 以上 620 未満	8～10%	耐湿工法推奨
Ⅱb	HI-500 : 690 以上 HI-520、HI-520-2 : 620 以上	10%以上	施工不可

※水分計の設定条件： 厚さ 40 mm、温度：AUTO

### 2) 平滑度

- 下地に目違い、段差、突起などがある場合はケレンやサンダーがけを行い、下地に凹凸、穴などがある場合は下地補修材《ロンフロー》を用いて補修する。

### 3) 表面強度

- 下地表面に粉立ちがある場合には、下地処理材《ロンバインダー》を下地状態に応じて水で 3～4 倍に希釈して、塗布する。
- 下地の湿気が予想される場合や下地表面強度が弱い場合には、下地処理材《ロンプライマーU》もしくは《ジョリエースJE-70》を塗布する。

注 1. セルフレベリング下地 (SL 下地) には石膏系とセメント系がありますが、コンクリート・モルタル下地に比べて、石膏系は強度が弱く、ビニル床シートの下地として適さないので、事前に試験張りして確認する必要がある。

#### 下地処理材 (プライマー) 塗布方法

《ロンバインダー》

- ① 下地をきれいに清掃する。
- ② 下地の状態に応じて 2～4 倍に薄めて、刷毛又はナイロンローラーを用いて塗布する。  
(塗布量は原液換算で約 50g/m<sup>2</sup>)  
下地表面が粗の場合 (ALC 等)                      水：ロンバインダー＝ 2 : 1  
下地表面が比較的密な場合                      水：ロンバインダー＝ 3～4 : 1
- ③ 十分な乾燥時間を取った後、床材を施工する。  
乾燥時間の目安：6～10 月＝1 時間以上、11～5 月＝2 時間以上

#### 《ロンプライマーU》

- ①下地をきれいに清掃する。
- ②刷毛又はナイロンローラーを用いて塗布する。(塗布量は約 120g/m<sup>2</sup>)
- ③指触乾燥時間は 1～2 時間(20℃)が目安となる。
- ④1日以上養生後、床材を施工する。(有機溶剤を十分に揮発させてから施工する必要がある。)

#### 《ジョリエースJE-70》

- ①下地をきれいに清掃する。
- ②《ジョリエースJE-70》を主剤A:硬化剤B=1:1の配合比で調合する。
- ③刷毛又はナイロンローラーを用いて塗布する。(塗布量は約 200g/m<sup>2</sup>)
- ④配合してからの可使時間は 150 分(環境温度 20℃)である。
- ⑤指触乾燥時間は 3 時間(20℃)が目安となる。
- ⑥1日以上養生後、床材を施工する。(有機溶剤を十分に揮発させてから施工する必要がある。)

### 4)汚れ

- ・下地に塵埃、モルタル滓、油、塗料などが付着していないか確認し、付着している場合には、除去、清掃する必要がある。下地にワックス、グリス、油類、塗料などの汚れが残っていると、接着不良や経年の移行で汚染を発生させる可能性があるため、完全に除去してから施工を開始する。

注 1. 施工中は、他業種による汚損・事故の発生を防ぐために、床工事関係者以外の立ち入りを禁止する。

注 2. 所定の接着力を発揮させるために、施工の前に下地の乾燥、表面強度、不陸などを点検し、不都合のある場合には、下地の調整や補修を行う。

注 3. 下地は湿気のない平坦かつ堅牢なものとし、適切な施工環境を維持する。この条件を遵守しなかった場合には目地すきや突き上げ、膨れなどを招く可能性がある。

### (3)仮敷き

平滑、平坦な床に仕上げる為に施工に先立ち、床シートを広げて仮敷き養生を 1 日以上行い、材料を安定させるとともに、巻き癖などを取り除く。

※1. シートを 10～20 枚重ねて養生すると効果的である。

※2. 大型のバーナー等でシートの出来るだけ広範囲を暖めてから養生すると、さらに巻きぐせが取れやすくなる。

### (4)墨出し、荒切り

床材の割り付け計画に従って床面に割り付け線を引く。

方法としては墨つぼによる方法と、糸チョーク(白)による方法がある。

この割り付け、墨出しで考慮する点は、部屋の入り口部分に目地が出来ないよう、デザイン柄の方向性などの美観的にも注意する必要がある。

①材料の保管中にシートの端末が多少まくれている場合がある。目地を美しく仕上げるために、目地部となるシートの片側端部(シート耳)を約 10mm 程度、エッジカッター(エッジトリマー等)を用いて、ストレートにトリミングする。シート耳をカットするので、有効幅は 1,800mm となる。

②目地処理を間違いなく行う為、床材同士の重なり巾を 20mm～30mm 余分に取り、墨出しする。

③端部は 50mm 程度余分に荒切りする。

また、立上げ施工する場合は、立上げ高さより 50mm 程度余分に荒切りする。

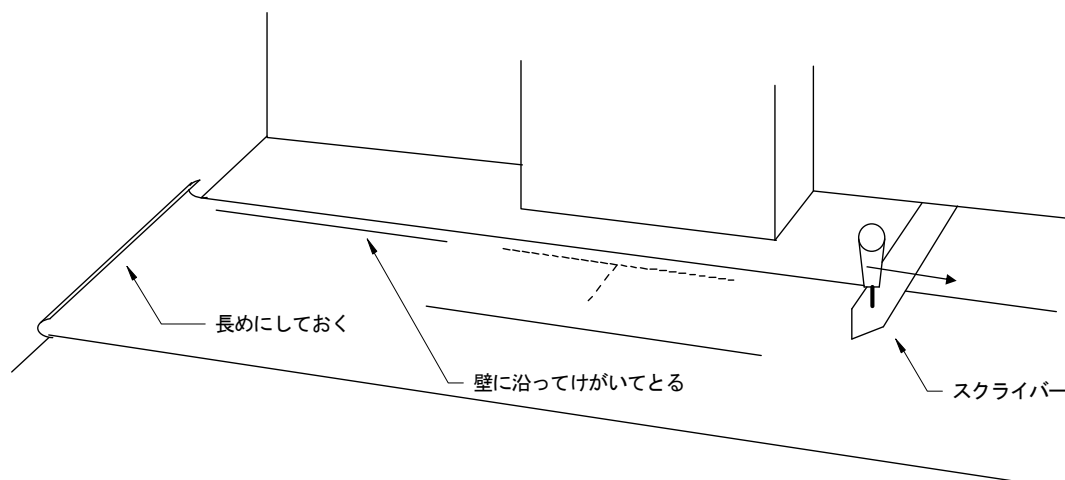
注 1. 割れが発生する可能性があるため、荒切りから張り込まで床シートの角(ツノ)出しを起こさないように十分注意して取扱う。

注 2. チョークの粉に含まれる染料(赤、黄、青など)で床材を汚染することがあるので、チョークリールを使用の際は必ず白チョーク粉を使用する。

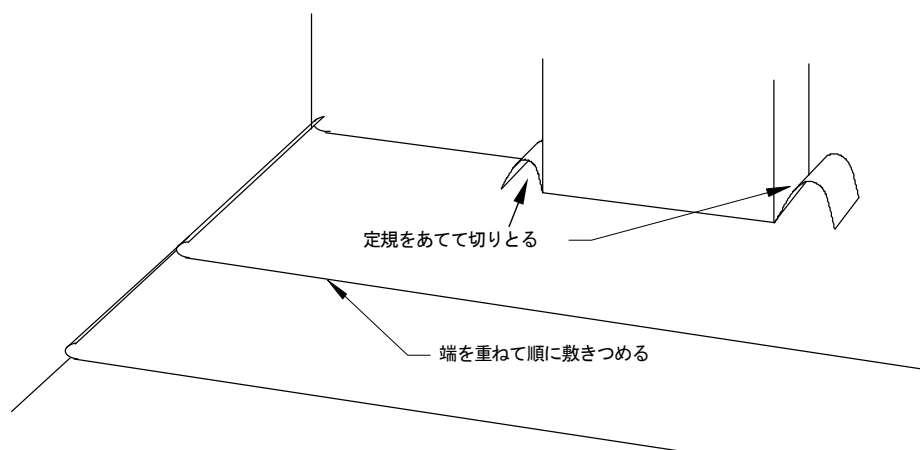
注 3. ロールに方向性がありますので、同一方向で施工する。

## (5) 寸法決め

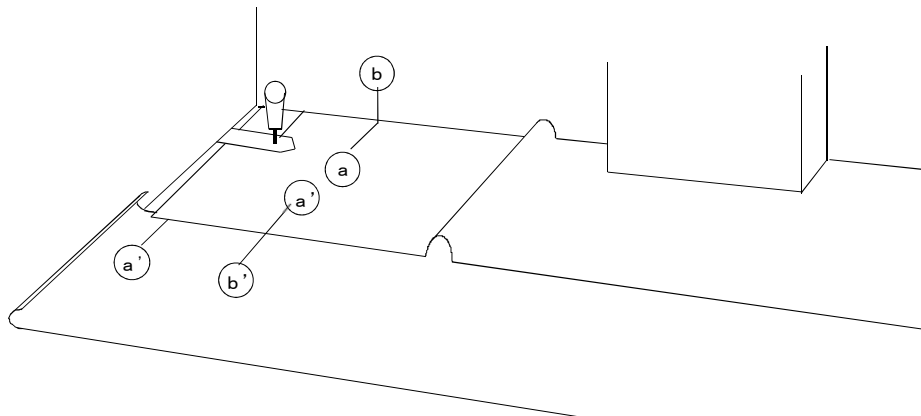
①部屋の周りの寸法決めはスクライバー(ケガキ棒等)を使用し、壁面に沿って床材をけがく。直線の壁面では、コーナーカッター(パーフェクトカッター等)を用いてカットし、納めるとより効率的である。



②次にけがいた線に沿ってナイフでカットして、壁際を納める。



③シート長手方向の壁際端部は下図のようにスクライバーを用いて床シート上に任意にaとa'の印を付け、次に余分に荒切りしてある 50mm よりも長くスクライバーを調整して、aとa'からスクライバーの巾分で壁面b、床面b'と印を付ける。次にa→b、a'→b'のようにずらして、a-b、a'-b'を合わせる。(スクライバーの巾分、平行に移動)

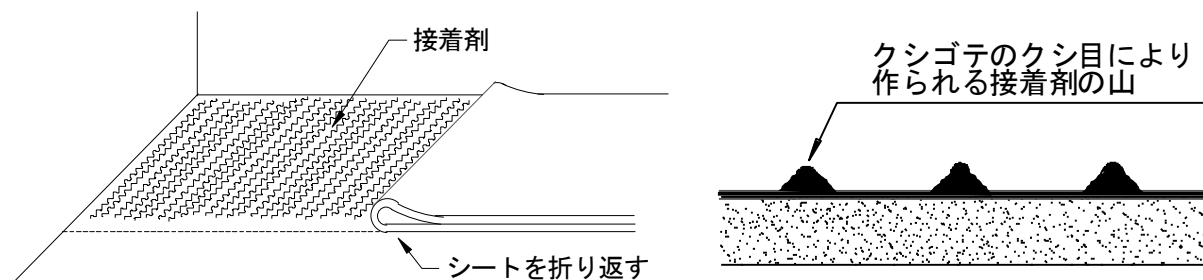


次にスクライバーで壁に沿って平行移動した巾で印を付け、その印に沿ってナイフで切り取る。

## (6) 接着剤の塗布

接着剤は、工法別に指定接着剤を使用する。

- ① 接着剤成分が分離している場合がありますので、使用前には必ず攪拌する。
- ② 床シートを巾方向または長手方向に折り返して、下地表面を再度清掃する。
- ③ 指定の接着剤を所定のくし目ゴテを用いて、中央部より均一に塗布する。



- ⑤ 接着剤のラベルに記載してあるオープンタイムや張り付け可能時間を参考にして張り合わせる。下地の状態・気温・湿度などにより異なりますので、乾燥状態を確認して床材を張り付ける。

注 1. オープンタイムが短すぎる場合は、溶剤の影響で施工後に床シートが伸びたり、フクレなどが発生する恐れがある。特に、プライマーを塗布した下地や湿気の多い下地ではオープンタイムが長くなる傾向が見られる。

注 2. オープンタイムが長すぎる場合は、床シートの納まりが悪くなり、接着強度が低下する恐れがある。

注 3. 床材を折り返して接着剤を分けて塗布する場合、床材を折り返した位置で接着剤が塗り重ならないように注意する。

注 4. 接着剤作業上の注意点(労働安全衛生法から)

有機溶剤による人体への健康障害を防止するため、有機溶剤形接着剤を使用するに当たっては、ガスの吸入や皮膚接触がないように注意する。接着剤の缶に表示してある労働安全衛生法による注意点をよく読む。溶剤形接着剤は火気厳禁である。

## (7) 張付けと圧着

- ① 所定のオープンタイムを取った後にシートにエアーを巻き込まないように張り合わせる。
- ② しごき棒(角材にカーペットを巻き付けたもの)やコルク板などを用いてエアー抜きを十分に行う。
- ③ 100 ポンド(約 45 kg)加圧ローラーを用いて、接着剤のクシ目をつぶすように入念に転圧着する。より良い仕上がり品質のため、圧着は繰り返し入念に行う。特に、作業終了後の再圧着は非常に有効である。
- ④ 施工完了後、再度 100 ポンドローラーで圧着する。

注 1. 圧着が不十分な場合、床材の剥がれ、浮き等を起こす可能性がある。

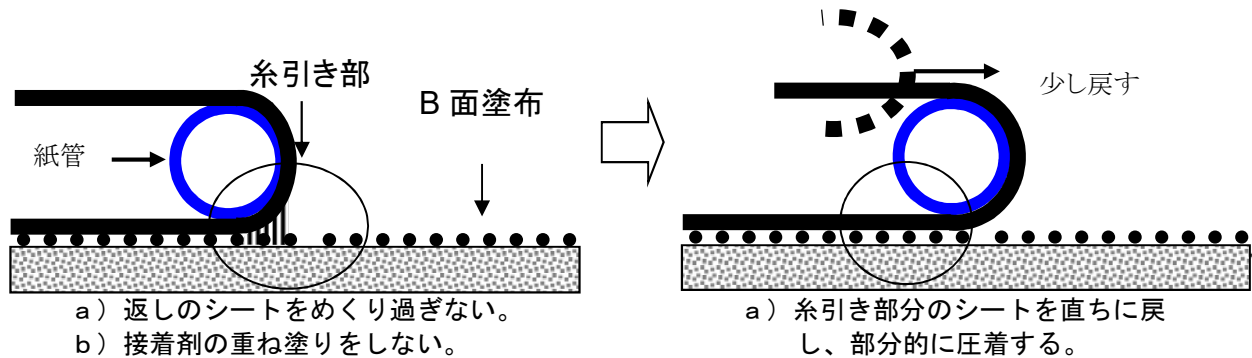
注 2. 接着力が十分に発現するまで、養生を行う。その際、台車等の荷重の移動もできるだけ避ける。



## ●その他注意点

[折り返しラインを目立ち難く仕上げるには]

オープンタイムが長い接着剤を使用する場合、通常の納め方をしますと折り返しのラインが目立つことがある。これは接着剤の硬化の進行によるものである。このため返しの面(B面)のシートをめくり過ぎないことと、接着剤の重ね塗りを避け、塗布後糸引き部分のシートを直ちに返し、部分的に圧着しますと目立ち難くなる。又、B面張り付け後には、返しの部分を100ポンドローラーで十分圧着する。



※床シートを折り返したところに紙管を入れておくと床シートの折れジワの未然防止になる。

[トーチバーナーの使用について]

端部の納めにトーチバーナーを使用するときには、炎を一点に固定して加熱しない。表面は防汚コーティング層で、炎を一点に固定して加熱すると防汚コーティング層に過熱によるシワが入ったり、場合によっては茶褐色に変色することがある。トーチバーナーを使用するときには、事前に端材を用いて使用条件での確認と現象の把握を行う。使用においては、トーチバーナーを前後左右に振って炎を一点に固定しないようにする。裏面側を加熱するのは有用な方法である。

## (8) 目地処理

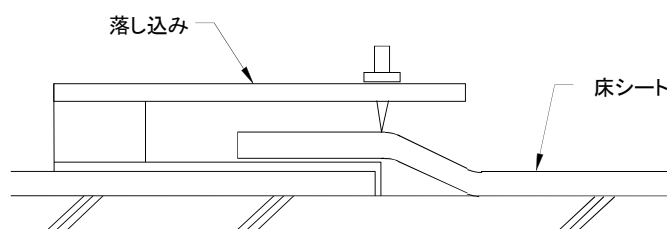
目地処理は接着剤による床シート張り付け後 24 時間以降に行う。接着剤の硬化が不十分だと、完全な溶接が行えない。目地処理には、専用溶接棒による熱風溶接工法とスーパーシームシーラーによる液溶着工法の2種類の方法から選択する。

### 1) 専用溶接棒による熱風溶接工法

#### ① 突き付け目地の作製

溶接工法の目地は、突き付け目地とする。

落とし込みを使用し、けがき線を入れて、余分な部分を切り取り、目地を作製する。下地と床シートが十分に接着するように、ハンドローラーで目地を圧着する。



## ②専用溶接棒による目地処理

施工後、24 時間以上経過してから、目地処理を行う。接着剤の硬化が不十分だと完全な溶接が行えない。

### 1)溝切り

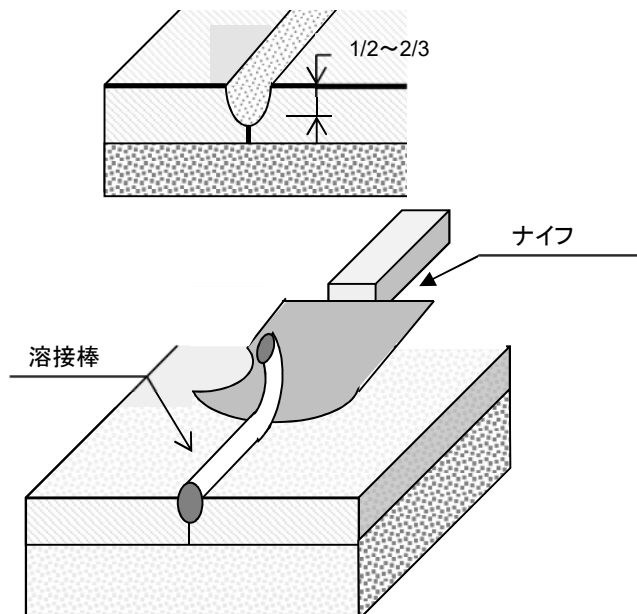
目地の部分はU字型(推奨)またはV字型の溝切り機で必ず溝切りする。  
溝の深さは床シートの厚さの  $1/2 \sim 2/3$  とする。

### 2)溶接

溶接工法には、ライスター熱風溶接機を使用し、十分な熱量で専用溶接棒を溶融しながら溶接する。

### 3)溶接部の仕上げ

溶接した余盛りは、一度スペーサーガイドを使用し、ナイフ(スパトラナイフ、モザートナイフ等)でカットし、その後溶接棒が冷えてから再度図の様にナイフで平滑にカットする。



注 1. 溶接切れの原因となる目透かし目地は、溶接強度が大幅に低下するので絶対に避ける。

注 2. 床材の美観を保つため(シワ、艶ムラ防止)、溶接には必ず熱風集中型ノズル(ウルトラスピードノズル、スーパーノズルなど)を使用する。

ライスター “ウルトラ “スピードノズル	ソフトノズル (スーパーノズル)
	
	

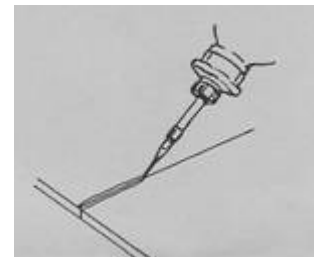
## 2)スーパーシームシーラーによる液溶着工法

### ①目地の作製

- 1)目地は、目地幅が 0.2～0.3mm (名刺1枚が、きつめに入るくらい)になるように落とし込み工法で納める。バリが発生した場合にはバリ取り作業を行う。
- 2)スーパーシームシーラーを専用容器に注入する。容器に注入する前に、シーラーの缶をよく振ってからボトルに注入する。振らずに使用するとジョイントの仕上がりに光沢が出てジョイント部分が目立ち、美観を損ねる。
- 3)容器にノズルを取り付ける。ノズルの先が汚れていないか詰まっていないか確認する。

### ②液溶着

- 1)注入する前に専用容器を軽く押さえて、容器内の空気を出す。空気を出さずに注入すると多量のシーラー液が床面にこぼれる危険性がある。
- 2)専用ノズルをジョイント部に差し込み、ノズルの先端が下地に当たっているか確認する。
- 3)専用容器を軽く押さえながら目地に注入する。シーラー液の量は、液幅は 5mm 程度が目安である。
- 4)床シート表面にはみ出たシーム液(液幅 5mm 程度)は、シーム液が硬化する前に、ウェスなどで拭き取る。



- 注 1. 長い目地にスーパーシームシーラー液を注入する場合、ノズルに接着剤や床材の塩ビ分が付着することがある。付着した場合は、ノズルの先を拭き取りながら作業する。
- 注 2. スーパーシームシーラーが硬化するまで(10分程度)、ホコリなどの付着、破損がないように養生する。
- 注 3. シーミング完了後は、必ずボトルからノズルを取り外し、針先を下にして、スーパーシームシーラー用クリーニングボトルに入れる。
- 注 4. シーラーが固まるまでは歩行を避け、ゴミが付着しないように注意する。

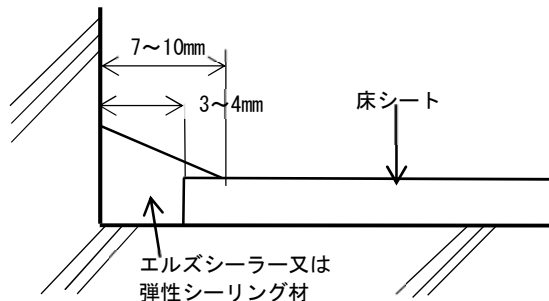
## (9) 端部の処理

端部処理は接着剤による床シート張付け後 24 時間以降に行う。

### 1) 端部の納まり図

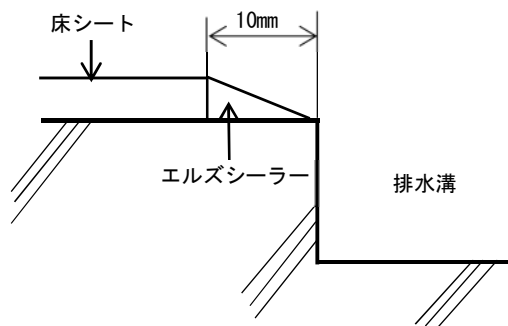
#### (1) 壁との取り合い

壁面から 3～4mm 程度離して施工する。スクライバーで壁面に合わせてシートにけがき、カットする。エルズシーラー又は弾性シーリング材でシーリングする。



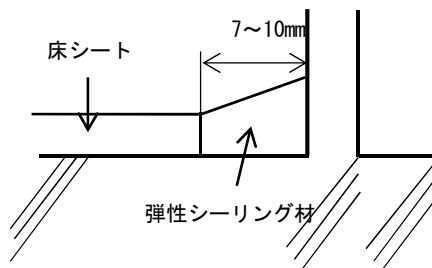
#### (2) 排水溝との取り合い

排水溝から 10mm 程度離して施工する。  
エルズシーラーでシーリングする。



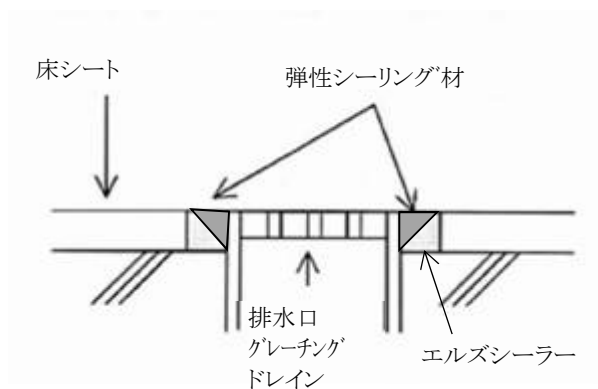
#### (3) 排水管との取り合い

排水管から 7mm 程度離して施工する。  
弾性シーリング材でシーリングする。



#### (3) 排水ドレインとの取り合い

排水用ドレインなどの金属部との取り合いでは《エルズシーラー》と弾性シーリング材でダブルシールして端部の目地処理を行う。



## 2) 端部の処理－1(エルズシーラー)

シートの裏に水が廻らないようにエポキシ樹脂系二液硬化形のシーラ材《エルズシーラー》で端部の目地処理を行う。排水用ドレインなどの金属部との取り合いでは《エルズシーラー》と弾性シーリング材でダブルシーリングして端部の目地処理を行う。

### 1) 乾燥確認

端部処理は接着剤による床シート張り付け後 24 時間以降に行う。接着剤の硬化が不十分だと、完全な端部処理が行えない。平場シート端部は《エルズシーラー》でシーリングする。

### 2) 目地の清掃

作業に入る前に、目地に溜まっているゴミは必ずハケなどで清掃する。

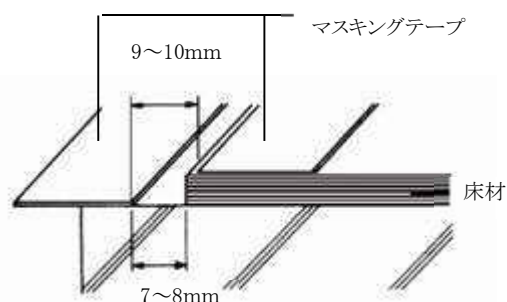
### 3) マスキングテープ貼り

マスキングテープを貼る。

床シート側のマスキングテープは《エルズシーラー》が床シートに1mm程度かかるように開けて貼る。

下地にシートから約7～8mm離してマスキングテープを貼る。

マスキングテープ図

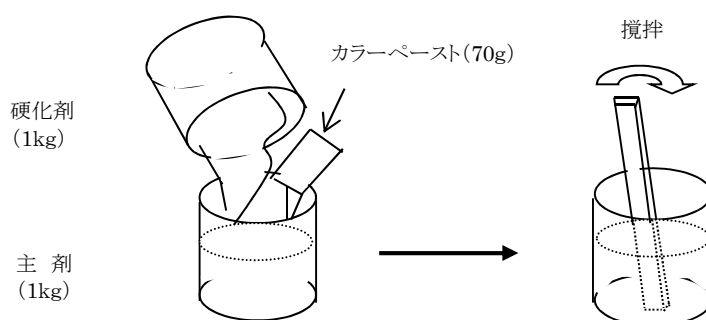


### 4) 《エルズシーラー》の混合、およびカートリッジへの注入

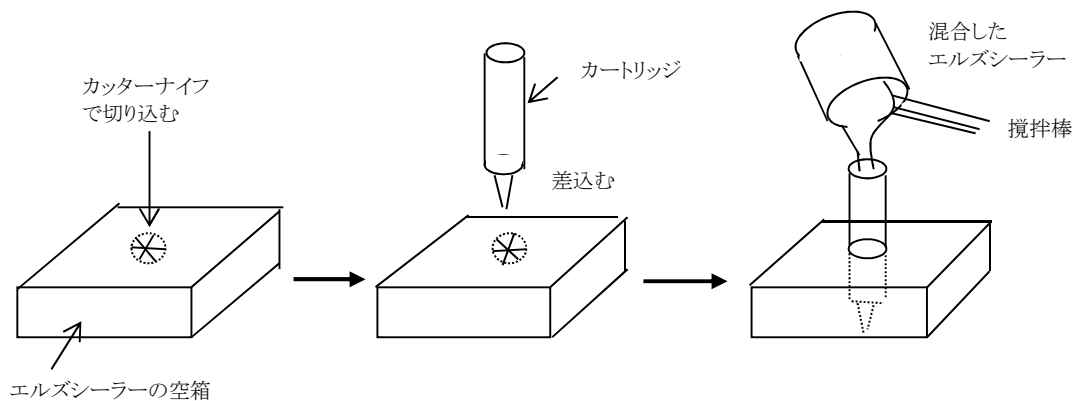
・《エルズシーラー》は二液混合型である。硬化剤(1kg)およびカラーペースト1袋(70g)全量を主剤(1kg)の缶に入れ、攪拌棒で色が均一になるまで十分に混合攪拌する。混合が不十分だと色むらや硬化不良の原因となるので注意する。2kgセットでカートリッジ4本分である。

・全量使用しない場合は、主剤と硬化剤およびカラーペーストを100:100:7(重量比)の割合で、別容器に取り出して混合して使用する。

・可使時間は30℃で約1.5時間であるから作業量に見合うだけの《エルズシーラー》を攪拌混合する。



- ・混合した《エルズシーラー》は攪拌棒を用いてカートリッジに注入する。
- ・カートリッジを立てるスタンドとしてシーラーの空箱を利用すると、安定して注入でき周囲を汚さずに作業できる。



- ・カートリッジにフタをしてからノズルを上にして2～3分間静置する。
- ・ノズルの先端をカットして、シーリングガンにセットする。

#### 5) 目地部分への充填、および仕上げ

- ・気泡を巻き込まないように目地の底部から入念に充填する。
- ・充填後、速やかにプラスチックベラで平滑に仕上げる。  
(表面が波立たないよう平滑に仕上げる。)もし、ヘラ仕上げ時に気泡巻き込みによるへコミが発生した場合は、直ちに作業を中止し、その部分に目地シーラーをやや多めに追加充填して、再度その部分のヘラ仕上げを行う。

#### 6) マスキングテープの除去

- ・引き剥がし時にマスキングテープの木口粘着剤によるシーラーの引きつけを防止するため、マスキングテープの除去はヘラ仕上げ完了後すぐに行う。
- ・なお、マスキングテープに付いた余剰のシーラーを床仕上げ材に付着しないように十分注意しながら作業を進める。

注 1. 《エルズシーラー》の詳しい使用説明書がセットの箱の中に入っているので、使用前によく読む。

注 2. 《エルズシーラー》の**可使用時間(主剤、硬化剤を混合後)**は、**30℃で約1.5時間**である。それまでに使用する。  
カートリッジに注入した《エルズシーラー》の保管は、可使用時間が短くなるので直射日光を避ける。

注 3. 夏期は硬化反応が早く進むので、アイスボックスなどを使用して高温にならないようにする。

注 4. 5℃以下で使用すると硬化反応が遅れるので注意する。冬季の施工時には、夜間の窓ガラスやサッシに発生する結露で硬化不良を生じて白化する場合があるので注意する。

注 5. ヘラ仕上げ後、硬化するまで、ほこりの付着、損傷がないように養生する。

注 6. 実際の使用可能となるには、施工完了後2～3日を要する。

### 3) 端部の処理－2(弾性シーリング)

シートの端部処理として、排水管(金属)との取り合いは、排水管の動きを緩衝し、止水する為に、《SPシーラントU》で弾性シーリング処理する。

#### 1) マスキングテープ貼り

本体と床シートの端部にマスキングテープを貼る。

#### 2) プライマー塗布

下地に刷毛でプライマーを塗布する。

#### 3) シーリング処理

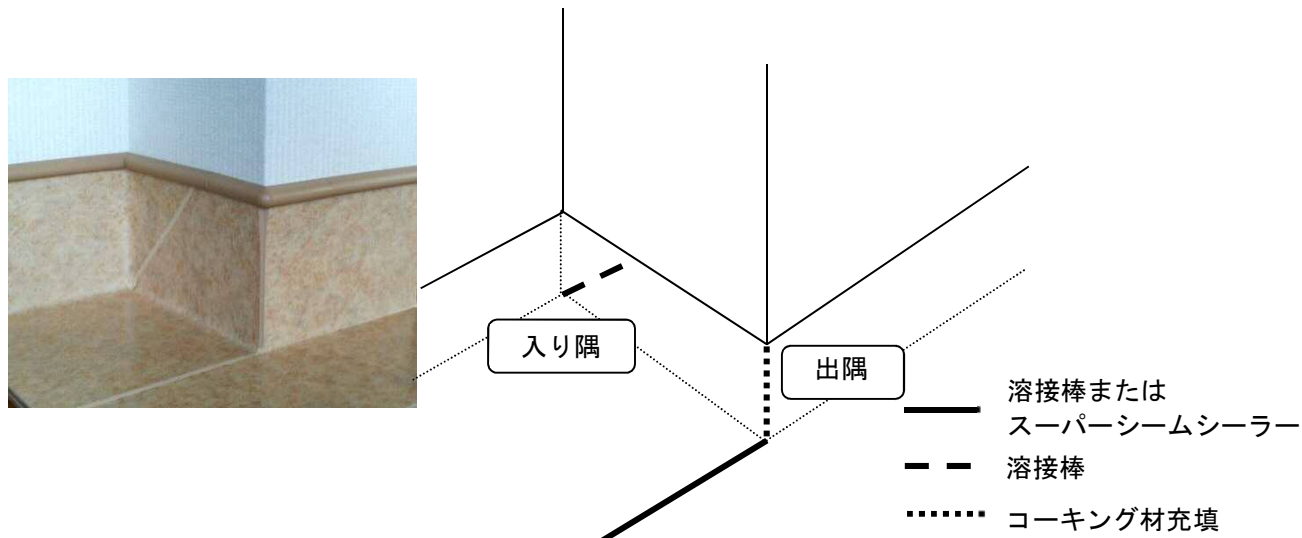
コーキングガンで充填し、プラスチックベラで平滑に仕上げる。マスキングテープを取り除く。マスキングテープに付いたシーリング材で壁や床シート表面を汚さないように十分注意する。

#### 4) 養生

弾性シーリング材が硬化するまで約2日間(20℃)養生する。

## (10) 立上り部の施工

タフレストは巻き上げ施工の必要のない乾式(ドライ)清掃のトイレ用床材である。  
タフレストを巻き上げ施工すると、出隅部分の防汚コーティング部分にヒビ割れが発生する恐れがある。  
湿式(ウェット)清掃のトイレとして巻き上げ施工する場合は、図のような特殊な巻き上げ工法を行うことでヒビ割れを抑制することが可能である。(下記施工方法は巻上施工の一例である)



壁際の折り曲げ部はライスターまたはバーナーで床シートの裏面から加熱して温めてからゆっくり折り曲げる。出隅部は突き付け目地として床シートと同系色のコーキング材を充填する。コーキング材は目地痩せる場合がある為、必要に応じて2回充填する。

## (11) タフレストの冬期施工・低温環境施工について

タフレストは表面に特殊材料を使用している為、冬期や低温環境において床シートが硬くなり、施工し難くなることもある。その場合は、ジェットヒーター等で作業環境温度を上げるか、トーチバーナー等で床シートを温めてから施工する。

## 5. 施工後および施工中の汚染防止について

施工時は工事関係者の出入りによる土砂や塵埃の持ち込みが多くなり床の汚や傷がつきやすい状態になっているので、汚れや傷つきを防止するために入口にドロ落としマットを敷き、履物を替えて出入りをする。

工事用の脚立や台車に使用されているゴム製キャップや車輪の中には床材を汚染するタイプのものである。施工現場には汚染の原因となるものが数多くあるので十分に注意し、監督者工事関係者と打ち合わせの上汚れを防止するように心がける。

床仕上げ施工が長期に渡るときは、その間の歩行や資材運搬台車等からの汚れや資材等の落下などによるキズ付を防止するため、床仕上げ施工の完了した場所から順次養生シートによる被覆養生を行う。

施工後、接着剤が硬化して水洗いできるようになったら、水の使用をできるだけ抑えながら洗剤「ワイブノン」で洗浄し、施工を含め、他の工事が継続する場合はさらに養生する。

以 上